

事務事業名	公共土木施設災害復旧事業 (R3災)		所属部	建設部	所属課	建設工務課 (災害復興T)	
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉		所属G	災害復興G		
	施策名	〈12〉道路の整備		担当者名	錦織 健人		
	目的対象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。			
	基本事業	〈035〉道路の維持管理		電話番号	0854-40-1062 (内線) 2474		
目的対象	道路利用者	意図	安全に移動できる。			予 算 科 目	0:1:5:5 1:0:1:0 大 事 業 名 中 事 業 名 03現年公共土木施設災害復旧事業 04過年公共土木施設災害復旧事業 01令和3年現年公共土木施設災害復旧事業 04令和3年過年公共土木施設災害復旧事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
災害発生箇所	道路、河川の機能を復旧することによって、安全に利用することができる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R3 年度 ~ R5 年度)	市管理河川・道路の被災箇所の復旧工事を実施する。(R3年発生分) 【災害復旧基準】 ・日雨量80mm以上、時間雨量20mm以上 ・河川の場合は雨量の他に断面積の2分の1以上の流量が必要。 ・補助対象事業費は60万円以上である。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) <input type="checkbox"/> 災害査定申請 申請件数:280件(河川:116件、道路:164件) <input type="checkbox"/> 工事発注・監督 ・河川 64箇所 ・道路 153箇所	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 日常の道路・河川点検が必要であり、職員によるパトロールを実施した。 災害調査、測量設計については外部委託を行い事務の軽減を図った。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 発注率	%		34.6	77.5	78.9
イ 完了率	%		1.1	54.3	78.9
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)	② コストの推移	単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)		
【地方債】災害復旧事業債 【R3年度】委託費:322,154千円、工事費:205,607千円、補償費:2,144千円、事務費:10,530千円 計:540,435千円 【R4年度】 ●R3繰越 工事費:686,083千円、補償費:3,966千円、事務費:4,217千円 計:694,266千円 ●R4現年 委託費:2,002千円、工事費:371,641千円、補償費:9,015千円、事務費:8,529千円 計:391,187千円 合計:1,085,453千円	財源内訳	国庫支出金	千円		308,197	932,224	621,105	
		県支出金	千円					
		地方債	千円			188,600	147,400	97,900
		その他	千円					
		一般財源	千円			43,638	5,829	9,837
事業費計		千円		0	540,435	1,085,453	728,842	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	工事監督・進捗把握に努めるとともに適宜業者との協議を行い早期完了に向け調整を図った。これにより54%の箇所の復旧が完了し安全性を確保した。
② 事業実施するうえでの課題	令和3年災においては被災箇所が多いことから情報が錯そうし災害発生直後の被災状況把握に時間を要した。 また、他事業の復旧工事も含めると被災箇所が非常に多く、施工業者の負担が過大となる。
③ 課題解決に向けた改革改善等	被災状況把握においては、日頃の河川・道路パトロールを行い異常箇所の有無を把握するとともに、災害発生時の報告ルールや調査体制の見直しを行った。今後は被災状況調査を行う業者との協定の拡大や、ドローン等のICT機器を活用し効率的な状況把握に努める。 また、進捗管理を行い負担の大きい業者への応援要請など調整を行う。